
雨の日の妖精

takumi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨の日の妖精

【Nコード】

N3765BA

【作者名】

takumi

【あらすじ】

雨の日に妖精が現れるという噂の話

昔、二十年ほど前に僕が高校生だった頃、学校で一つの噂話はやったことがある。

雨の日に現れる妖精の話。

雨の日に一人の高校生が妖精を見たというのが発端だったらしかったのだが、具体的にそれはなんなのか、こういった姿かたちをしているのかといった肝心な部分がその話にはなかった。

所詮は噂話、おそらく作り話だと当時の僕は考えていた。

そのうち噂話にはいろいろな尾ひれがつくようになった。「妖精は白くて小さい」とか「妖精を手に入れたら幸せになれる」とか「見たら夢がかなう」とかそんな内容だ。今思い返しても本当にくだらない。

なぜ今になってそんなことを思い出したか、窓の外は雨なのだ。ちょうどこいつと出会った日も今日みたいなうっとうしい雨だった。

高校三年の六月のある日、放課後の教室でその話を聞いた。

「なあ、雨の日の妖精の話しってるか？」

噂好きな友人がそう切り出してきた。

「いや、知らないけど」

「なんか見たやつがいるんだってさー」

「妖精ってどんな？」

「いや、しらん。聞いたのは見たっていう事実だけ」

「うそくさい話だな」

「俺もそう思うぜ」

ハハッと僕は友人と笑い合った。その話のことは帰宅した頃には覚えていなかった。それぐらいどうでもいい話だった。

数日後、こないだと同じ友人が話しかけてきた。

「妖精の話おぼえてるか？」

そこではじめて「ああそんな話もあったなあ」と思いだした。

「ん、あったねそんな話」

「あれから別のやつも見たんだったさ」

「ほう」

「やっぱり見たのは雨の日なんだと」

「へえ」

「でな、妖精は白くて小さかったらしいんだよ」

「白くて小さい？」

「ああ、近寄ろうとしたら消えちゃったんだと。もともと雨のせいで視界も悪かったらしい。でさ——」

その話はそこで終わった。受験勉強でどこか空気の悪いこの時期にあったかい話だな。と思ったくらいだ。そこで自分も探してみようと思えなかったのは僕がただ単にそこまで興味がなかったただけだ。そのあと目撃例は相次いだ。見た人間は一樣に近寄ろうとするものの、雨で視界が悪く見失ったらしい。

やがて目撃した人間の中に告白が成功したとか、テストの点が上がったという人間が出始める。これが雨の日の妖精伝説、遭遇したものは幸せになれるとか夢がかなうとかいう話につながる。

そんな話を聞いても僕はやはり興味がなかった。いや、興味が無いというのは嘘になるかもしれない。噂話に踊らされるのがどこかしやくだった。

七月初旬、まだ梅雨も明けないある日、その日は相変わらずうつとらしい雨だった。

僕は親に頼まれ駅前のスーパーで魚を買った。駅から住宅街へ、住宅街は件の妖精の目撃が相次いでいる地点だった。それを思い出し、もしかしたら会えるかなと、そんな期待をほんのわずか胸に抱

いていた。

いいわけをするとあれだけ噂になっていれば、口では何と言おうがさすがに興味もわく。特にあんな雨の日は。

そして出会いは訪れた。

視界不良の雨の中、道のむこうに白くて小さいもの。

――間違いない。

僕は確信した。あれが妖精だと。

僕もその他大勢と同じようにとりあえず近づくことを試みた。しかし逃げる様子はない。それどころか近づいてきているような気さえた。

だんだんと互いは近づき僕はそれがなんなのかはつきり理解した。そしてなぜ僕には寄ってきたのかも。

――みゃあ

僕はそいつを雨音アマネと名付けた。

こいつがうちに来てからもう二十年ほどの月日が流れた。

当時生後数カ月の子猫だったアマネは老猫となり、今も僕の膝の上で気持ちよさそうに眠っている。

あの日僕は妖精を手に入れた。

今、あの噂話は本当だったのかと聞かれれば迷わず答える。

こいつとこうしている今が一番幸せさ。よって噂は本当だと。

(後書き)

読んでくださりありがとうございます。

祖母の家の猫も雨の日に拾われた猫でした。
もう16年くらいの付き合いです。

よかったら感想お願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3765ba/>

雨の日の妖精

2012年1月9日21時59分発行